

通園（児童発達支援、放課後等デイサービス）評価について

当院通園ルームの概要

通園ルーム「ひまわり」は在宅の重症心身障害児者を支援するために、平成13年に「重症心身障害児者通園事業B型」として開設されました。平成24年度からは、法改正に伴い「生活介護」「児童発達支援」「放課後等デイサービス」の多機能型として再スタートしました。

基本理念は「在宅重症心身障害児者に活動の場を提供することで、生活リズムを作り、生活の質を高め潤いのある生活を保障するとともに経験の幅を広げ社会性を養う」ことにあります。同時に「家族の介護負担を軽減し、安定した在宅生活を送ることができるよう支援する」ことが重要と考えています。

児童発達支援・放課後等デイサービスおよび生活介護（保護者評価）

今年度は放課後等デイサービス登録者（以下児童と表記）7名、生活介護登録者（以下成人と表記）24名の保護者の皆様へ評価をお願いし、児童2名、成人10名の保護者より回答をいただきました。調査用紙はガイドラインで示された様式を使用しました。

1. 『環境・体制整備』の「活動スペースの確保や清潔」については全員から「適切」との回答を得ました。「職員の配置数や専門性」には「どちらともいえない」との回答が4名ありました。配置数や職員の業務についてはご家族への説明を心がけていきます。
2. 『適切な支援の提供』は、「適切」との回答を多くいただきました。「障害のない子どもとの交流の機会」については「いいえ」「わからない」の回答が多く見られました。
新型コロナウイルス感染防止もあり、他事業所や保育園等との交流の機会を持っていないことが原因と考えます。
3. 『保護者への説明等』では、「運営規定等への説明や保護者会への支援」等の項目で半数が「どちらともいえない」との回答でした。運営規定などは掲示しておりますが、改めて説明の機会を設けておりません。ご不明なことがありましたらお知らせください。
4. 『非常時の対応』の災害・感染等の対応マニュアルの整備や訓練の実施は「どちらともいえない。わからない」の回答が多く聞かれました。マニュアルを整備し訓練も実施しておりますが、ご家族に実態をお知らせできるよう配慮します。
5. 『満足度』では「子どもが楽しみにしているか」「事業所の支援に満足している」とともに「はい」との回答が殆どでした。提供する活動や支援を工夫しながらより満足していただけるよう頑張ります。

その他自由記述として以下の感想をいただきました。

- ・連絡帳に子供の表情などの記述もあるとうれしく思います
- ・予防接種（インフルエンザ、新型コロナ）等も実施してもらえるとありがたいです（実施しておりますので、お問い合わせください）

- ・年齢に合わせた活動もあるとありがたい
- ・利用時間の見直しを希望します。
- ・あまり良い対応でないと感じる時がある。
- ・夏の室内の温度設定が子供には低すぎるような気がする（温度設定を見直してほしい）
- ・小学生になり、以前より通うことは少なくなっていますが、通える場所があつてありがたいです。成長を報告しあえることが楽しみです。
- ・通い始めて 2 年ですが満足しています。医療ケアの変更にも快く対応してくれています。日々の活動も楽しく過ごせるように配慮されていると思います。帰りには子供は笑顔でいる

ことが多く楽しかったことが分かります。

- ・このコロナ禍で「通園」は病院にとってある意味リスクを伴うので苦勞があると思います。他の通園施設が受け入れを縮小する中で、以前と変わらない受け入れに感謝しています。
- ・13 歳から 13 年間通っています。人工呼吸器が手放せないのですが、入浴、洗髪等毎週ピカピカにしてもらっています。
- ・医療的なことが多くなります。相談、支援をお願いすることが多くなりそうです。よろしく願います。
- ・来年度は新型コロナ感染が落ち着いて、色々な行事ができることを祈っています。

児童発達支援及び放課後等デイサービス（自己評価）

支援に関わる職員 6 名の自己評価をお示しします。調査用紙はガイドラインで示された様式を使用しました。

1. 環境体制整備については適切に運営されていると回答されています。
2. 業務改善については、昨年度は自己評価および保護者向け評価の「ホームページ等での公開を知らない」との回答が見られましたが、今年度は改善され全員が「知っている」と回答していました。また、研修への参加には全員が「参加している」との回答でした。
3. 適切な支援の提供は「適切に行っている」との回答でした。当院では「児童発達支援計画（個別支援計画）」に基づいた看護、療育を実施しており、保護者の方への説明同意も実施しています。
4. 関係機関や保護者との連携は、概ね「連携が図れている」との回答でした。必要に応じ行政機関や他事業者との情報共有を図っています。特別支援学校とは在学生の実習受け入れを行っています。また、家族とコミュニケーションを大切に、家族支援に努めています。家族支援プログラムを作成しての支援には至っていません。今年度は感染予防への配慮のため、他事業所や保育園との交流の機会は持っておりません。
5. 保護者への説明責任等はほぼ全ての質問に「支援している」との回答でした。保護者

会との連携、通信の発行、個別支援計画の説明交付の機会等を活用しています。

6. 非常時等の対応は「できている」との回答でした。病院として「緊急時対応マニュアル」「感染症対応マニュアル」を整備しています。虐待防止については、「人権擁護委員会」で病院として取り組んでおり、職員対象の研修を実施しています。

まとめ

この度はアンケート調査にご協力いただきありがとうございます。

当院では「個別支援計画」を中心に医療・福祉連携により利用児童への支援を実施しています。昨年度に引き続き今年度も新型コロナウイルス対応により、支援計画の大幅な変更と支援方法の工夫を行ってきました。今回のような調査を行うことで利用者、保護者の方のご意見を運営と利用児童への支援に活かしていきます。

2022年2月 25日

国立病院機構下志津病院通園ルームひまわり

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者 吉田 誠